

貿易取引はなぜ行われるのですか？

A

- ❑ 各国が得意な製品を生産・輸出すれば、みんなが得をします。
- ❑ しかし、現在では同じような製品が貿易取引されることも多くなっています。
- ❑ それは、生産するほどコストが下がり、製品ごとの違いが明確になってくるからです。

各国が得意な製品を生産・輸出する

私たちの身の回りには、外国製品がたくさんあります。欧州製のブランド製品が目につきますが、食料品のかなりの部分は外国で生産されたものです。石油になると、ほぼ一〇〇%が輸入品です。逆に、

日本で作られた製品も盛んに輸出されています。自動車は依然として日本の輸出品の代表選手ですし、その他の工業製品でも日本製品が世界で大きなシェアを維持している例が少なくありません。

では、なぜ貿易取引が行われるのでしょうか。日本にとつての石油のように、国内生産が不可能なのは外国から購入するしかありません。しかし、自

動車などは特定の国でしか生産できない製品ではありません。そこで、その国がほかの国に比べて生産

することを得意とする製品を生産・輸出している、というのが伝統的な貿易理論の考え方です。これを比較優位の原理（比較生産費説）といい、英国の経済学者リカードが十九世紀初めに打ち立てました。

例えば、英国とポルトガルが、ともに毛織物とワインを生産していたとします。しかし、英国ではワインより毛織物の方が安く生産でき、ポルトガルでは逆にワインの方が安く生産できるとしましょう。

このとき、両国が毛織物とワインの両方を生産するより、英国は毛織物を生産・輸出し、ポルトガルはワインを生産・輸出するという形で分業した方が、

両国民にとつて望ましいはずで

す。各国がその天然資源や労働力、生産技術を生かして、得意な製品を生産・輸出することになるというのが、比較優位の原理の考え方です。

規模の利益と製品の差別化

ところが、現代の貿易取引をみると、とりわけ先進国間では、同じ分類に含めてよい同質の製品が輸出入されるといふ形（水平分業的貿易Ⅱ産業内貿易）が次第に多くなっています。比較優位の原理が説明するのは、国によつて輸出される製品が異なる貿易取引（垂直分業的貿易Ⅱ産業間貿易）ですから、現代の貿易取引をうまく説明できません。

それでは、水平分業的貿易はなぜ成り立つのでしょうか。製品の生産には生産規模を大きくするほどコストが低下するという、規模の利益が生まれる場合があるからです。いま、ある国に自動車を生産している会社があったとします。その会社にとつては、国内だけで販売するより、外国に輸出する分も合わせて生産

パン

した方が一台当たりの生産コストが低くなります。

一方、隣の国にも、同じような状況に置かれている自動車会社があり、できれば輸出をしたいと考えていたとします。ここで、この二社の生産する自動車がそれぞれしっかりとした特徴（ブランド）をもち、両国の消費者にとつて明確に区別できるとすれば——この状況を「製品が差別化されている」といいます——互いに自動車を輸出し合うという状況が生まれます。このように、生産における規模の利益と消費における製品の差別化が組み合わさると、同質の製品でも貿易取引されることになります。

